

第6章 質問紙調査結果から見られる傾向

児童生徒質問紙調査の結果をグラフ化したり、「分析支援プログラム」を使って、全県の傾向を調べたり、教科に関する調査のデータと関連させて分析したりしました。

各学校においても、「分析支援プログラム」の活用や結果データのグラフ化などをして、自校の分析結果を全県の傾向と比較したり、自校の研究の成果を検証したりして各校の取組の改善につなげてください。

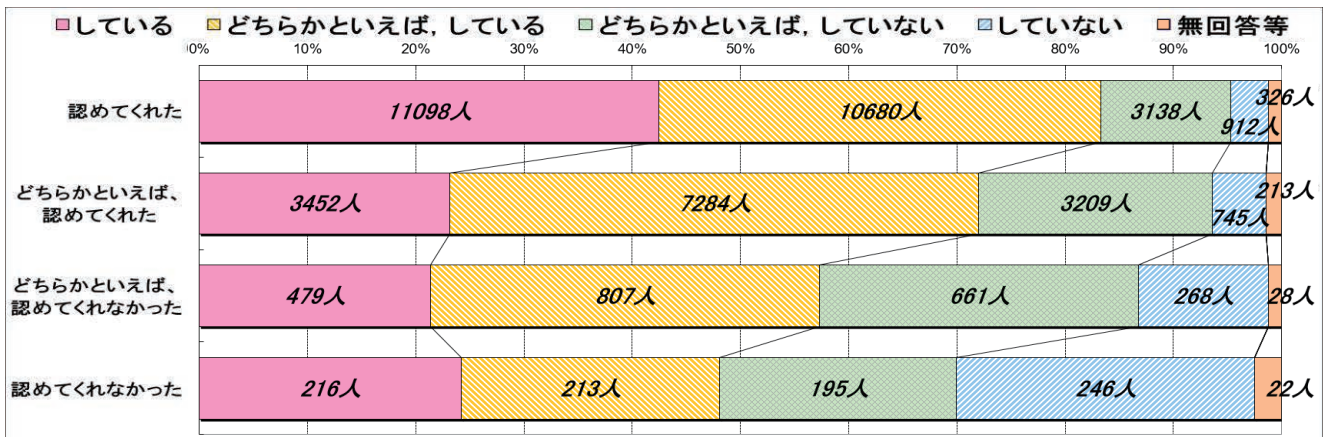
1「教師との関係」と「自分に対する考え」分析と傾向

【概要】
 教師が「認めてくれた」という実感をもつ児童生徒ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」「どちらかといえば、している」と肯定的に回答する傾向が見られる。
 また、児童生徒の多くは、「教師から認められていること」に対して「認めてくれた」「どちらかといえば認めてくれた」と肯定的に回答している。

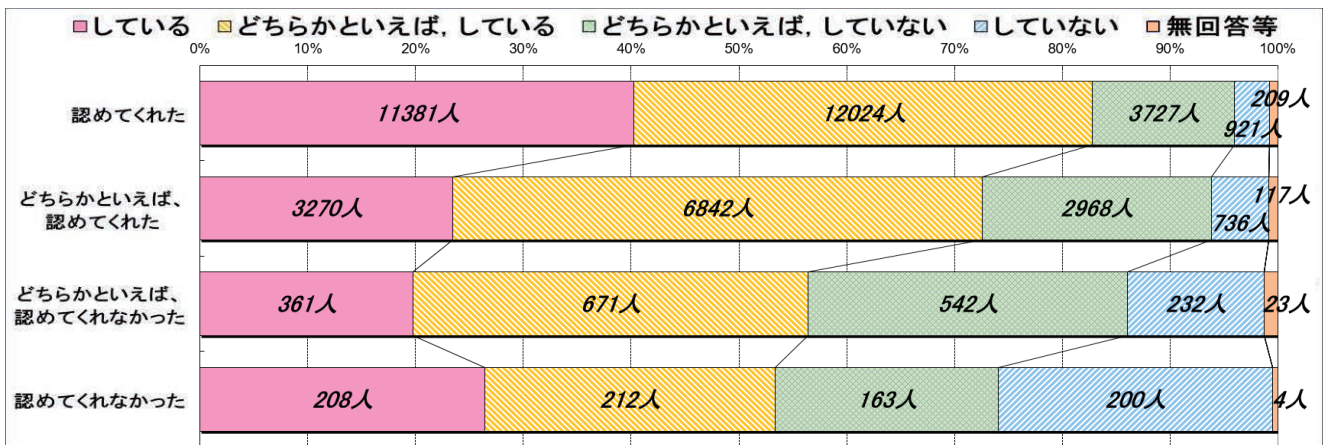
- 【先生方へのメッセージ】**
- 児童生徒は自分の努力やよさを認められたり、ほめられたりすることによって、自己効力感や自信を高めていきます。
 - 一人一人の児童生徒に自信をもたせる言葉かけを、継続的に行いましょう。
 - 児童生徒が挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次の活動につながる意識をもたせることが大切です。

横軸カテゴリー→ **むずかしいことでもしっぱいをおそれないでちょうせんしていますか**
 縦軸カテゴリー→ **(前学年)学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか**

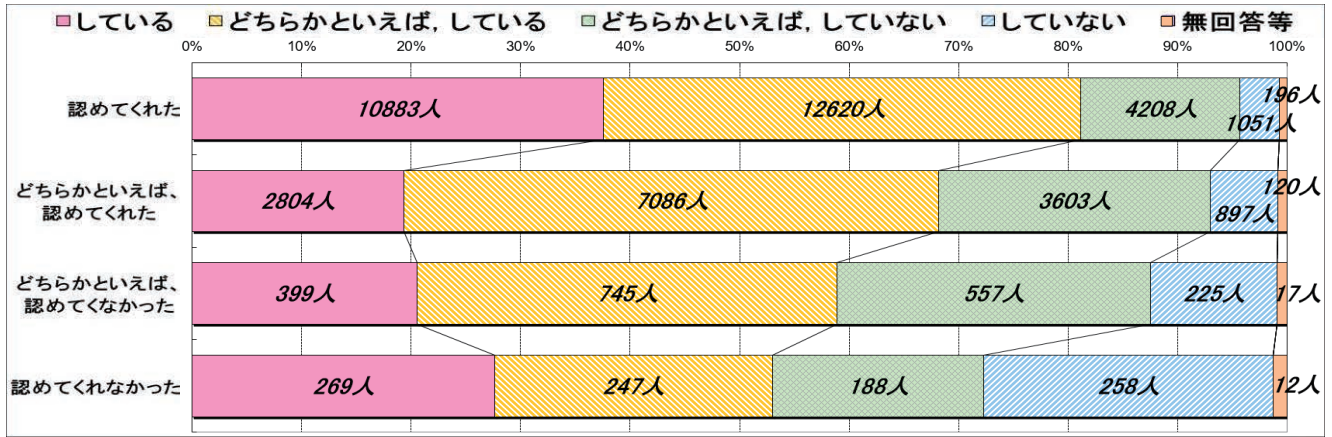
小学校4年



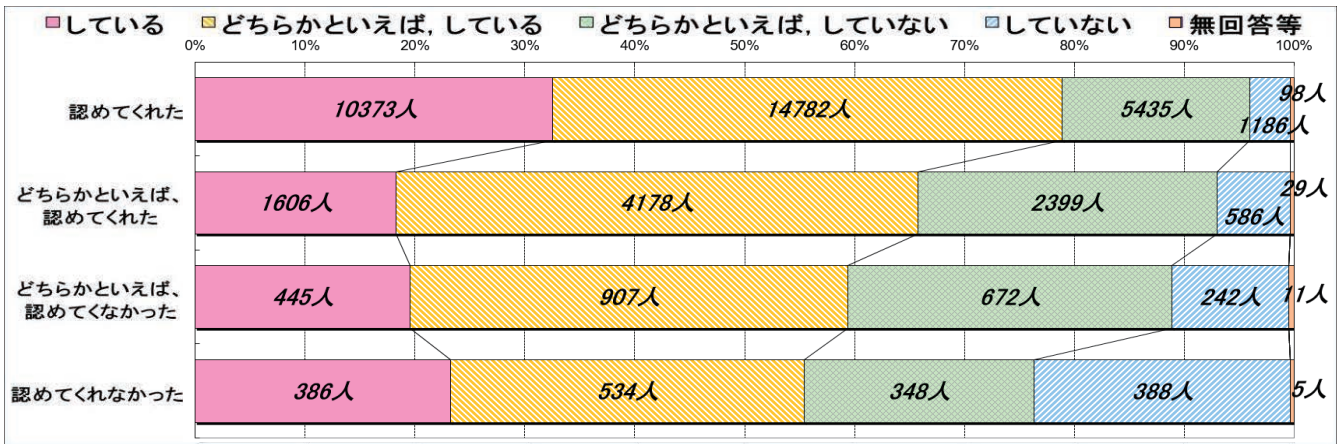
小学校5年



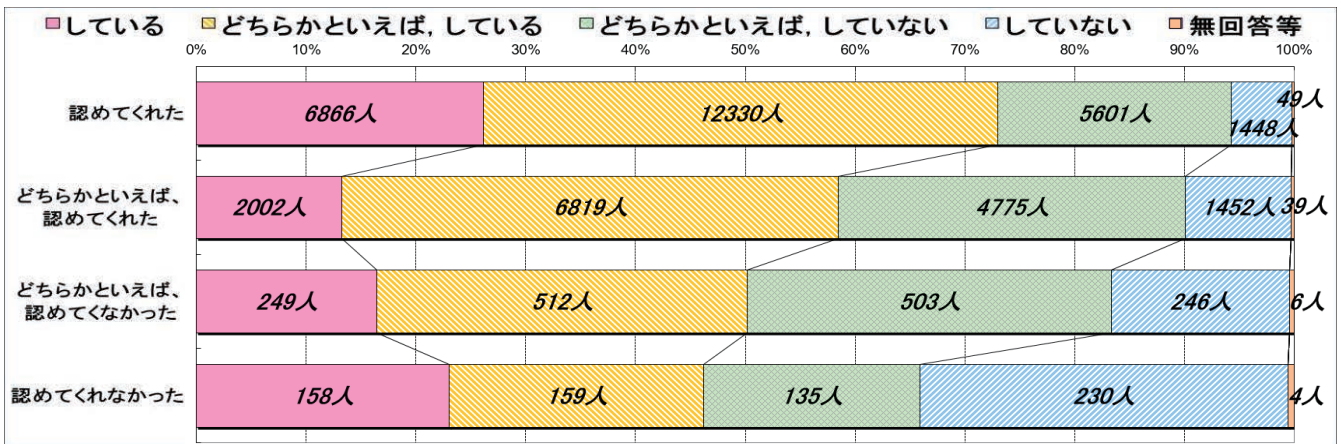
小学校6年



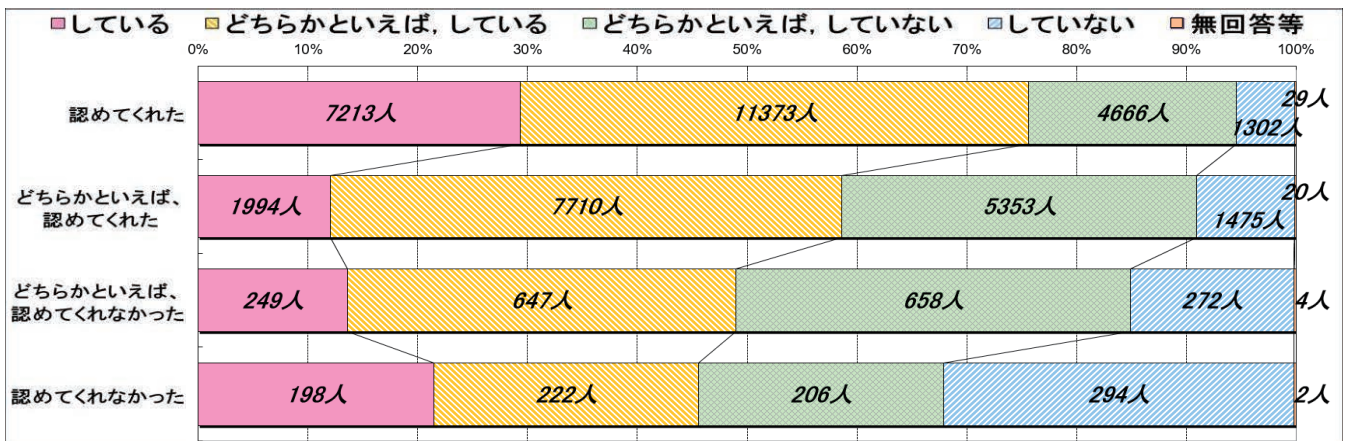
中学校1年



中学校2年



中学校3年



2「学級の雰囲気」と「学習の様子」分析と傾向

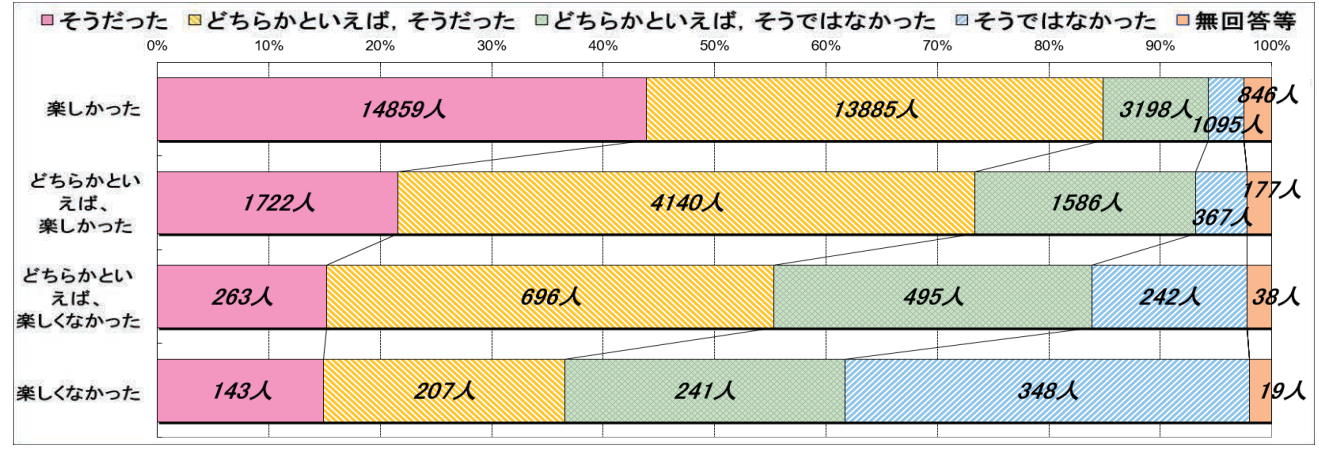
【概要】
 「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒ほど、学級は落ち着いて学習する様子であったと捉えている傾向がある。
 また、「学級での生活が楽しかった」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに学年が上がるにつれて、減少している傾向があるが、小学校6年生の時は増加する傾向がある。

【先生方へのメッセージ】

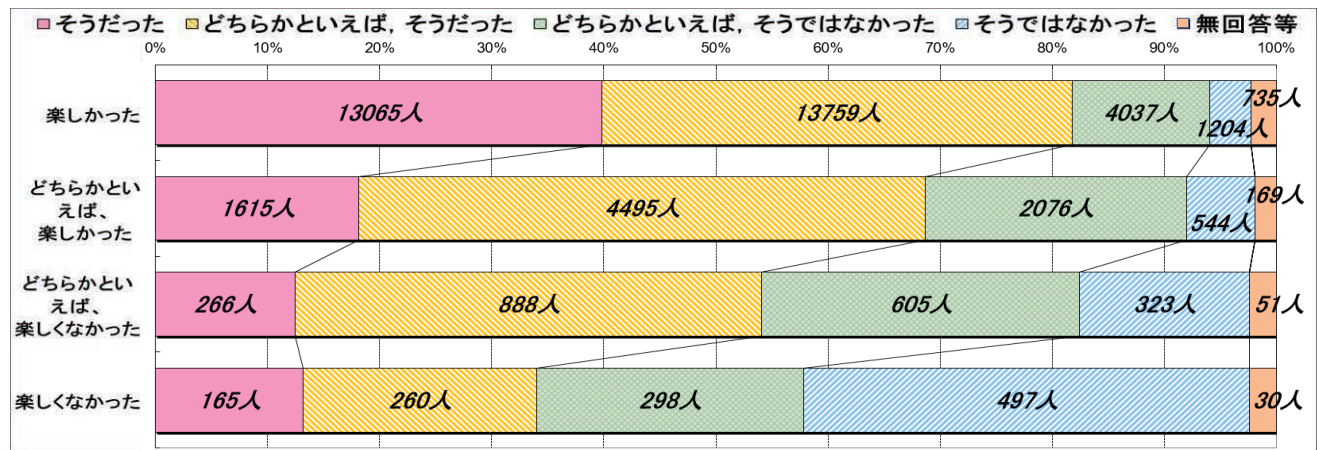
- 自分の居場所があり安心して生活できる学級は、児童生徒の心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気を醸成します。
- 落ち着いた学級づくりは、学力向上にも効果があります。児童生徒が「楽しい」と感じる学級づくりに日々取り組みましょう。その際、学校の「よい取組」を共有することや、学力の伸びが見られた効果的な取組をまとめた、県学調の「活用リーフレット」などを参考にしましょう。

横軸カテゴリ⇒ (前学年)学級は落ち着いて学習する様子でしたか
 縦軸カテゴリ⇒ (前学年)学級での生活は楽しかったですか

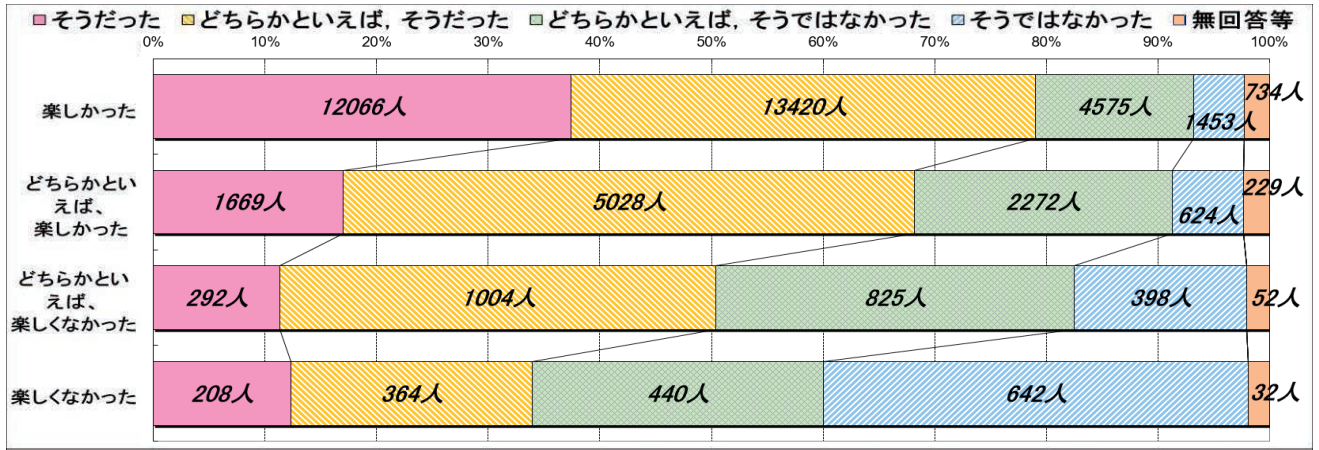
小学校4年



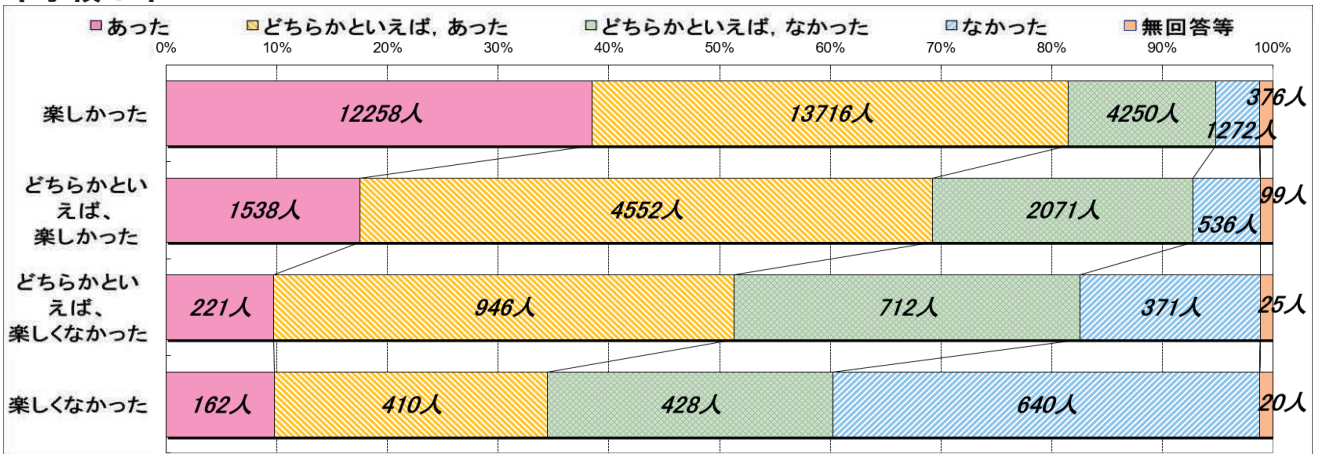
小学校5年



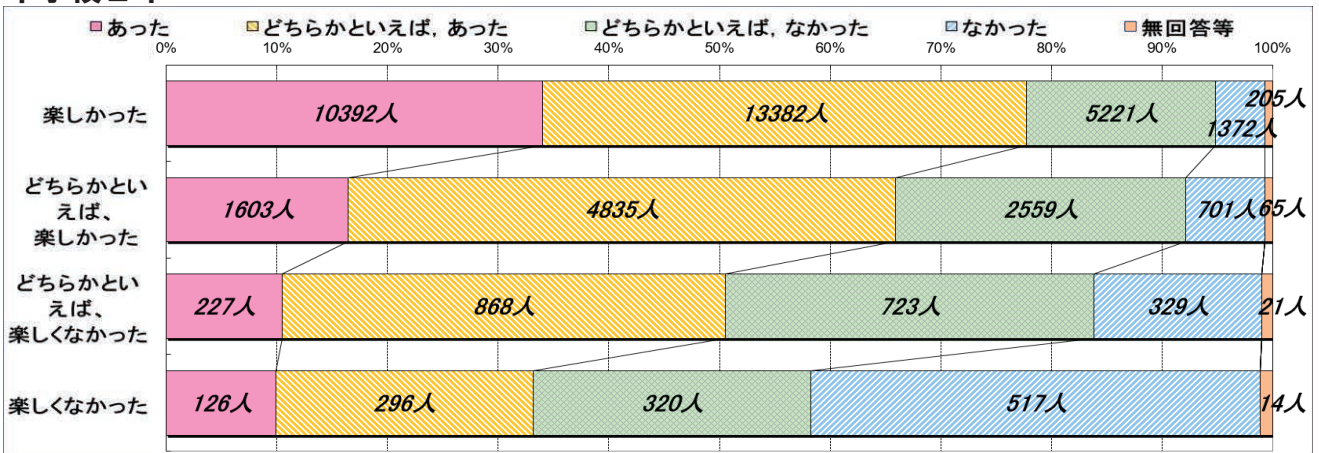
小学校6年



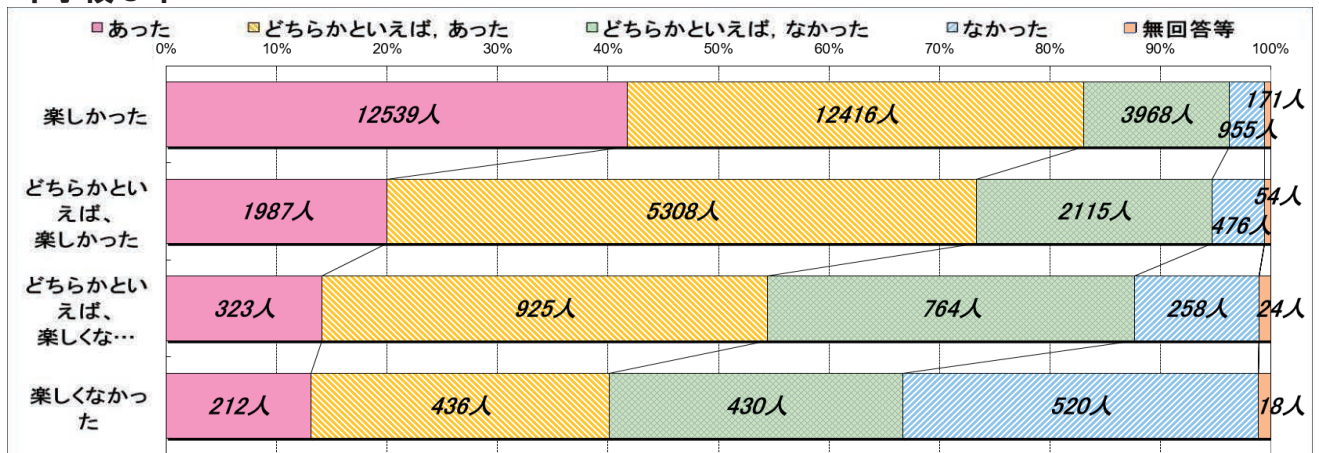
中学校1年



中学校2年



中学校3年



3 「自己認識」と「各教科の学力」分析と傾向

【概要】

「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して「思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒ほど学力が高い傾向が「国語」「算数・数学」「英語」の全てに共通して見られる。

中学校よりも小学校で、肯定的な回答をした生徒の方が、学力が高い傾向にある。

また、肯定的な回答をした児童生徒は、学年が上がるにつれて少しずつ減少している。

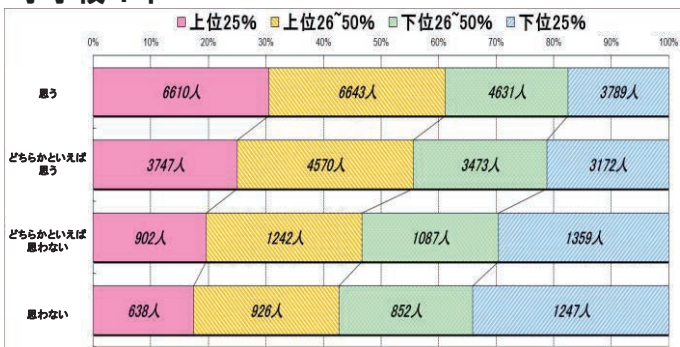
【先生方へのメッセージ】

- 児童生徒が「自分にはよいところがある」と思うためには、学校生活の中でのプラスの声かけ（自分の役割を与え、達成したことを認める等）が何より大切です。授業や生活の中での声掛けの質を高めましょう。
- 児童生徒の生活行動や学習活動の中で「よい点」を教師が積極的に見つけ、フィードバックしましょう。県学調の伸びや質問紙調査の結果も活用しましょう。
- 1年間の学力の伸びや伸びにつながったがんばりを認め、ほめるとともに、児童生徒や保護者、学年職員などで児童生徒の学力の伸びの状況を共有しましょう。

横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

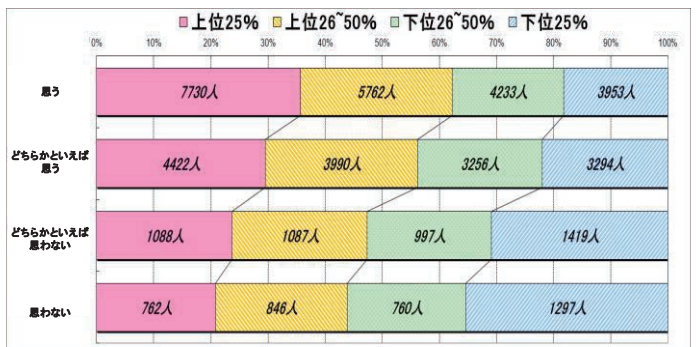
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

小学校4年

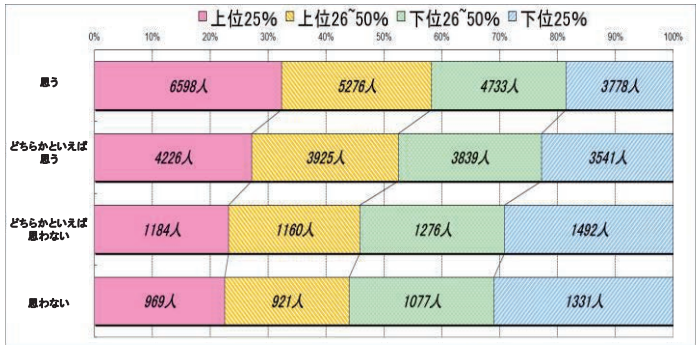
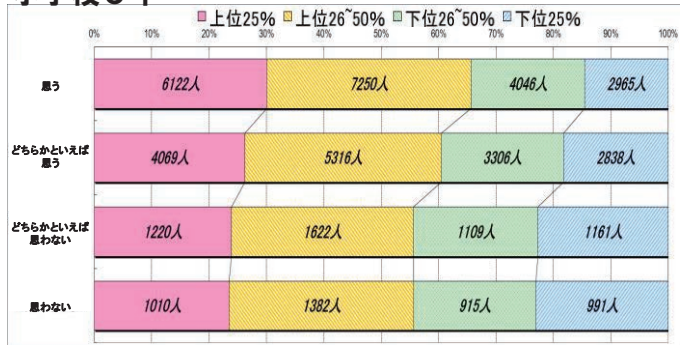


横軸カテゴリ⇒ 学力階層_算数

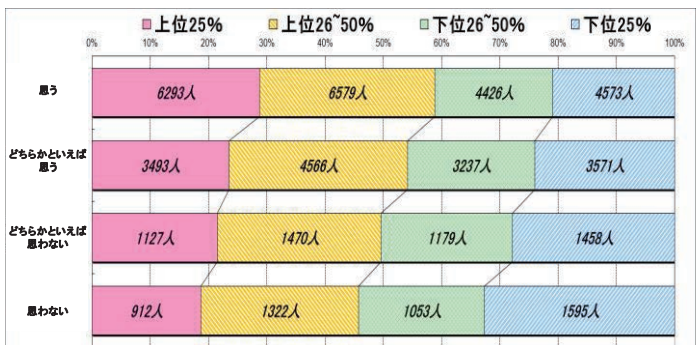
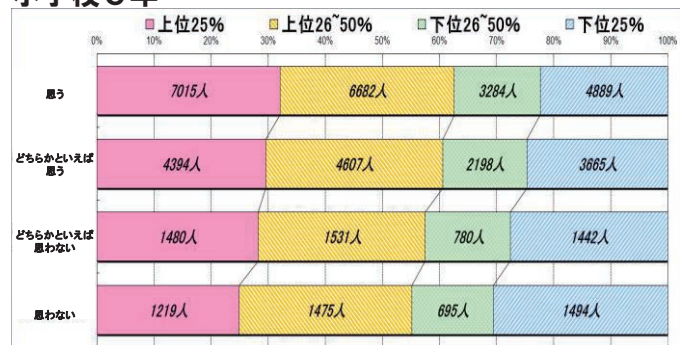
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか



小学校5年

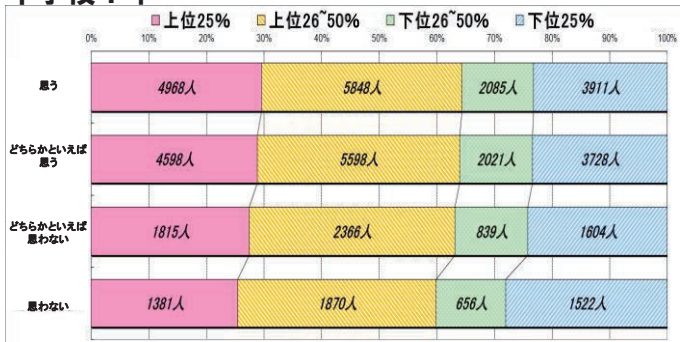


小学校6年

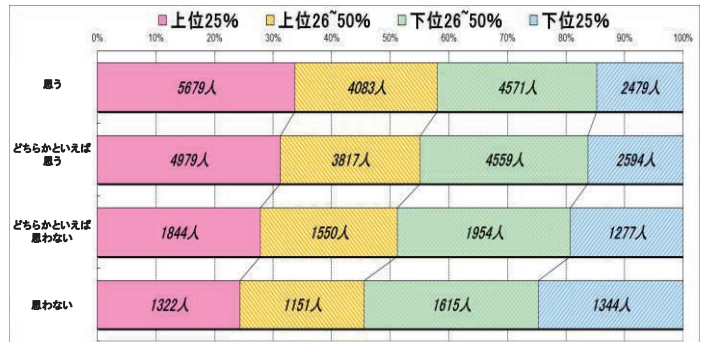


横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

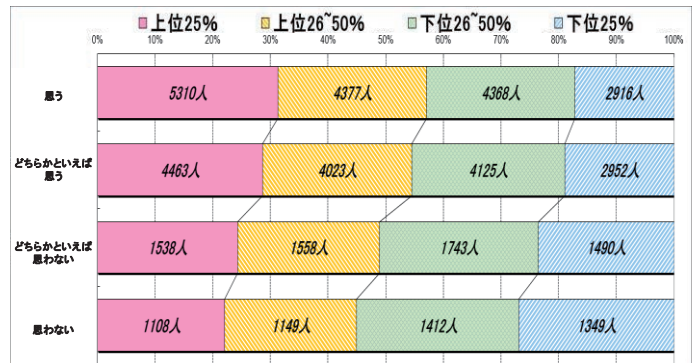
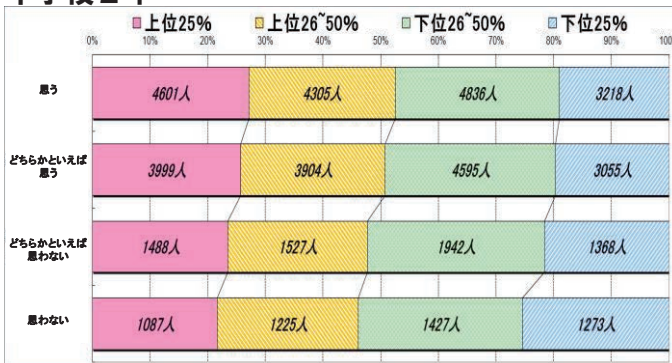
中学校 1 年



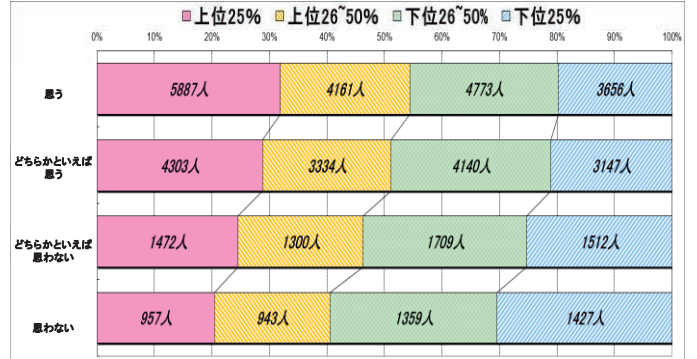
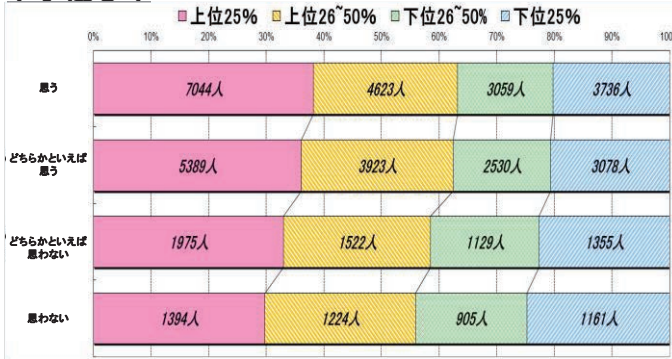
横軸カテゴリ⇒ 学力階層_数学
 縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか



中学校 2 年

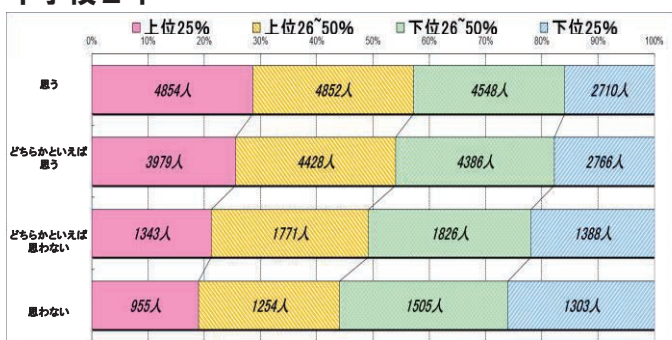


中学校 3 年



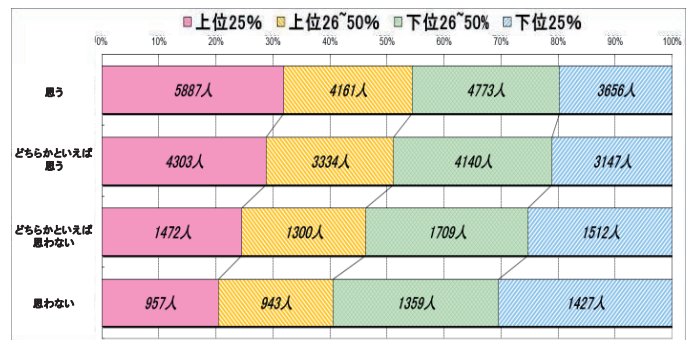
横軸カテゴリ⇒ 学力階層_英語
 縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

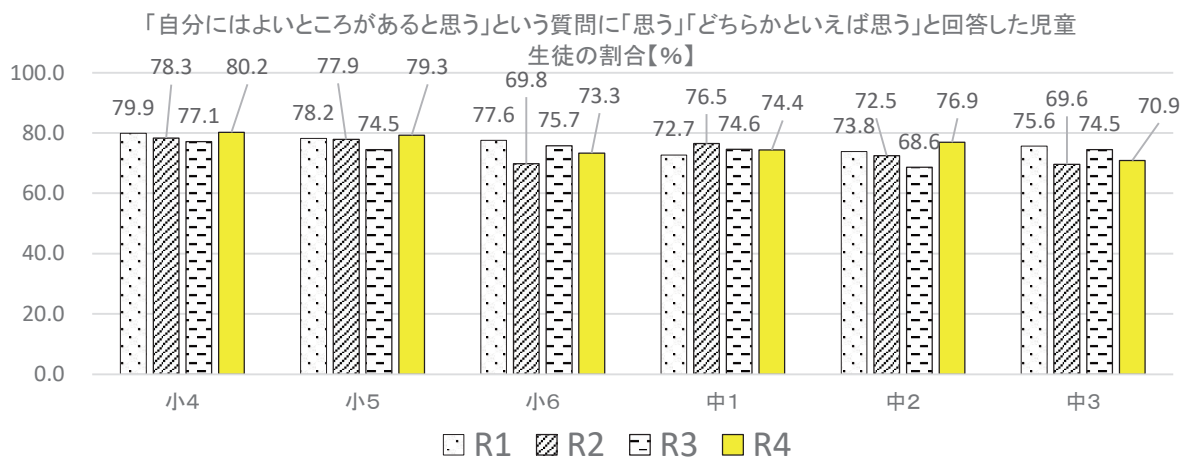
中学校 2 年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_英語
 縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

中学校 3 年





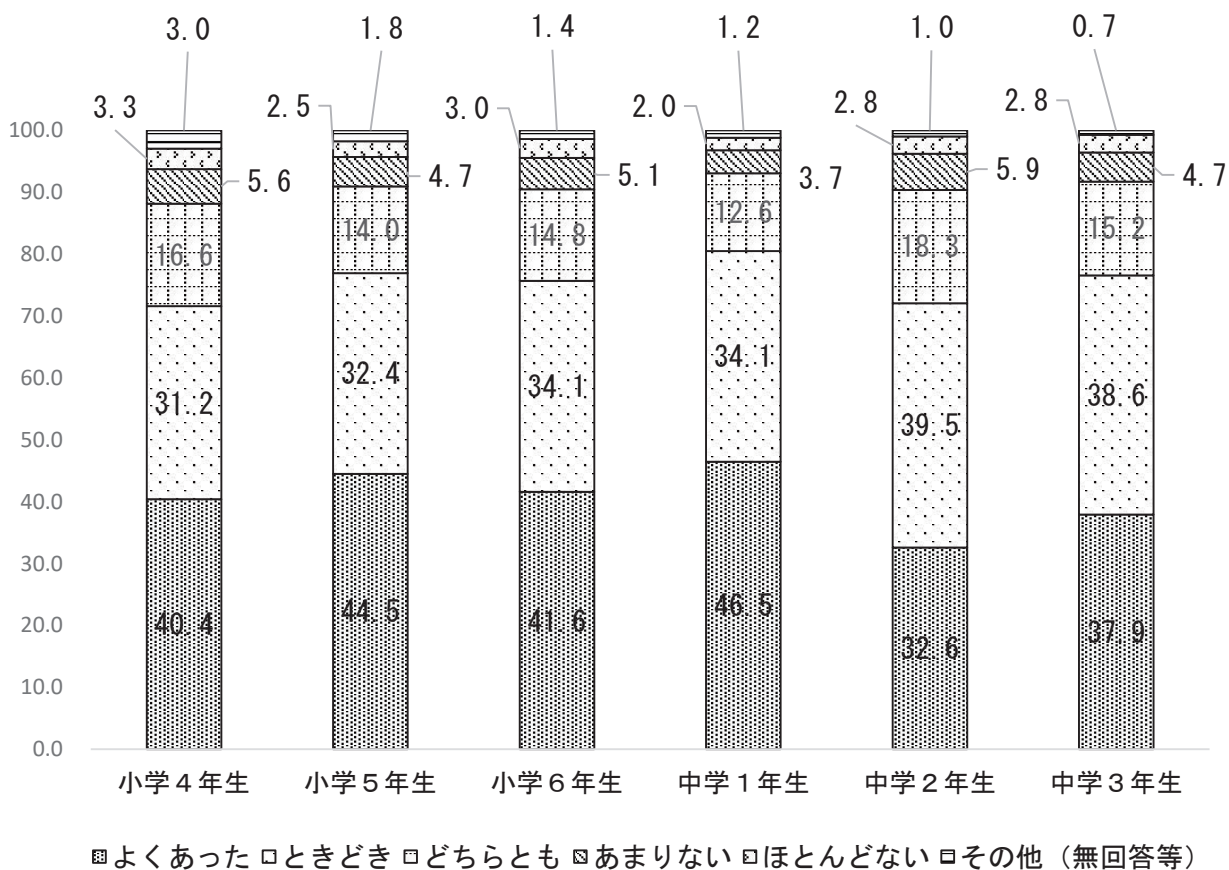
4「主体的・対話的で深い学び」と「各教科の学力」分析と傾向

【概要】

令和4年度の結果では、各学年の約7割の児童生徒が、授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったことがあると回答している。

また、「授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったことがある」がどれくらいあったかという質問について、「よくあった」「ときどきあった」と肯定的な回答をした児童生徒は、学力が高い傾向が見られる。

授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったことがある【%】



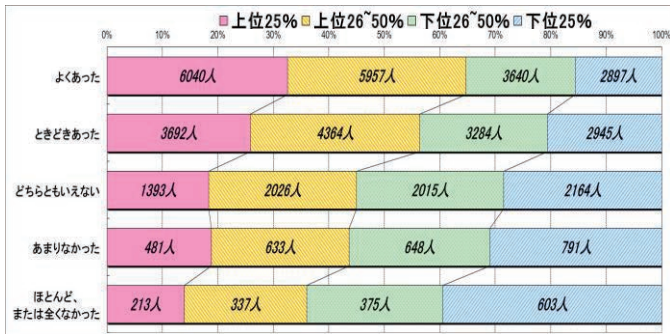
【先生方へのメッセージ】

- コロナ禍においても、感染防止に努めながら主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を進めていただきました。
- 学習内容を反復して身に付けるだけでなく、活動や振り返りを通して以前学習した内容や既存の知識とつなげられるように支援しましょう。
- 児童生徒が、新たな学びを以前の知識と結び付けられるように、知識の系統性を踏まえた授業改善をしていきましょう。

横軸カテゴリ→ 学力階層_国語

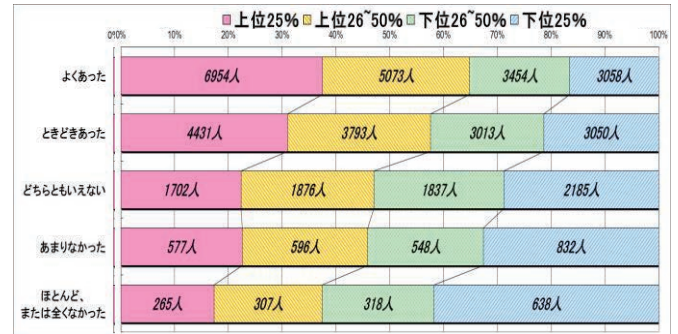
縦軸カテゴリ→ (小3国語)じゆ業で学んだことが、い前学習した知しきとつながったこと

小学校4年



横軸カテゴリ→ 学力階層_算数

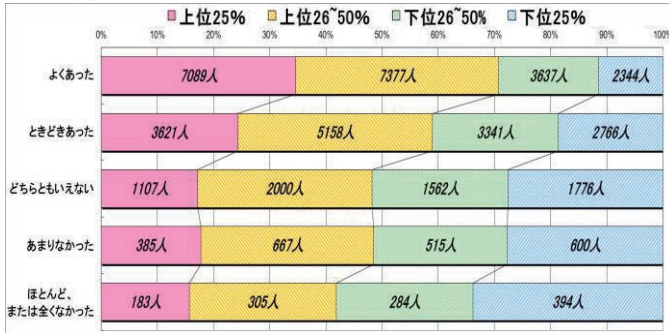
縦軸カテゴリ→ (小3国語)じゆ業で学んだことが、い前学習した知しきとつながったこと



横軸カテゴリ→ 学力階層_国語

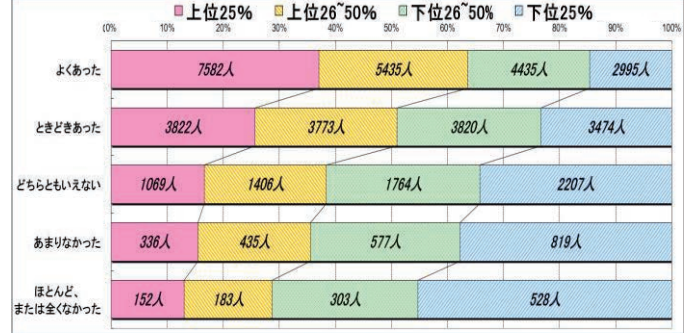
縦軸カテゴリ→ (小4算数)じゆ業で学んだことが、以前学習した知しきとつながったこと

小学校5年



横軸カテゴリ→ 学力階層_算数

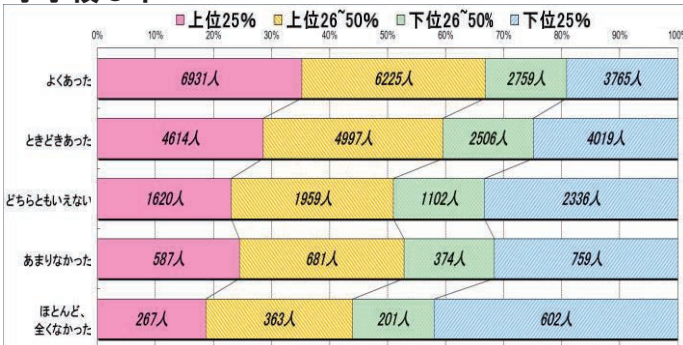
縦軸カテゴリ→ (小4算数)じゆ業で学んだことが、以前学習した知しきとつながったこと



横軸カテゴリ→ 学力階層_国語

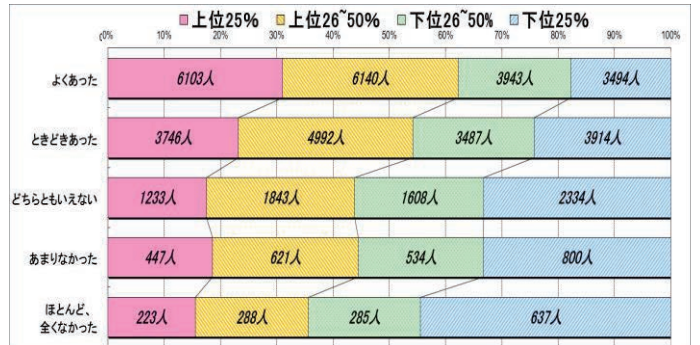
縦軸カテゴリ→ (小5国語)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

小学校6年



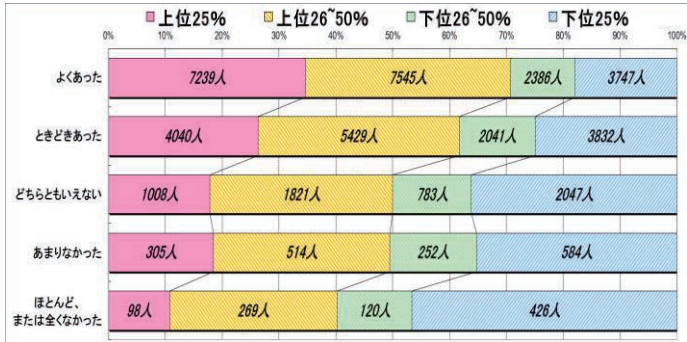
横軸カテゴリ→ 学力階層_算数

縦軸カテゴリ→ (小5国語)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

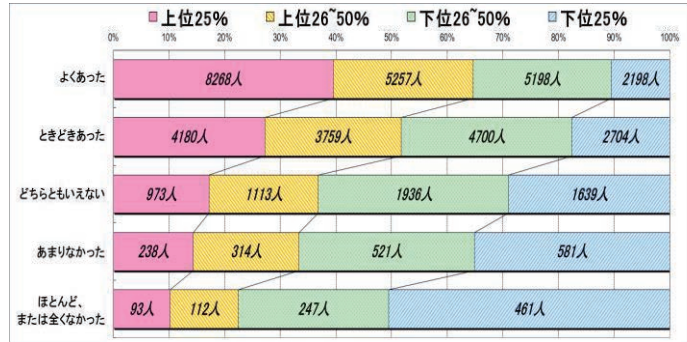


横軸カテゴリ→ 学力階層 国語
 縦軸カテゴリ→ (小6算数)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

中学校1年

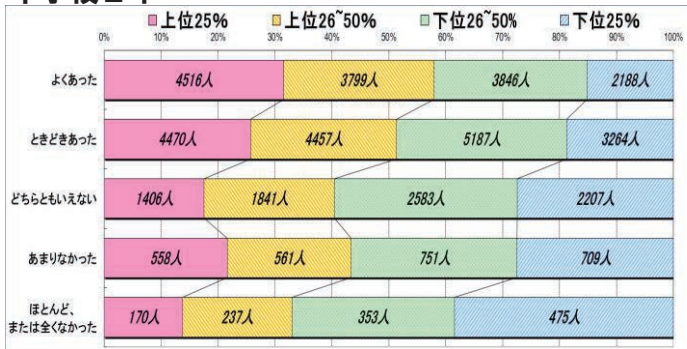


横軸カテゴリ→ 学力階層 算数
 縦軸カテゴリ→ (小6算数)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

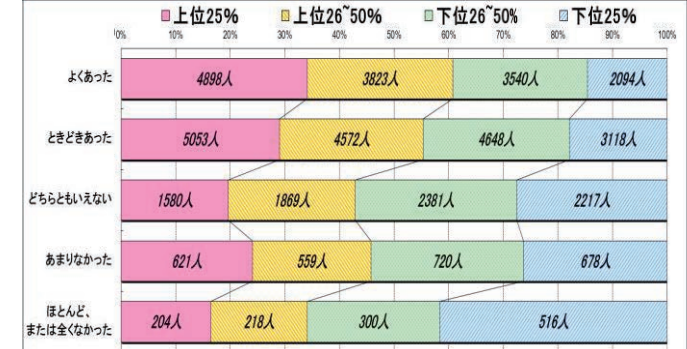


横軸カテゴリ→ 学力階層 国語
 縦軸カテゴリ→ (中1国語)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

中学校2年

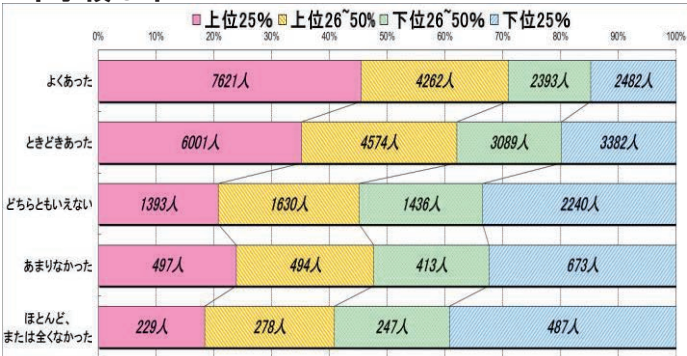


横軸カテゴリ→ 学力階層 数学
 縦軸カテゴリ→ (中1国語)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

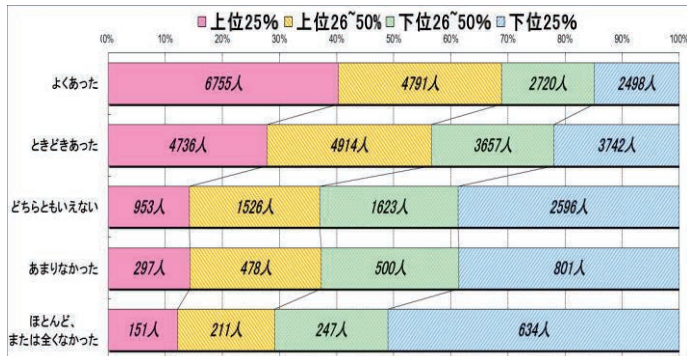


横軸カテゴリ→ 学力階層 国語
 縦軸カテゴリ→ (中2数学)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

中学校3年

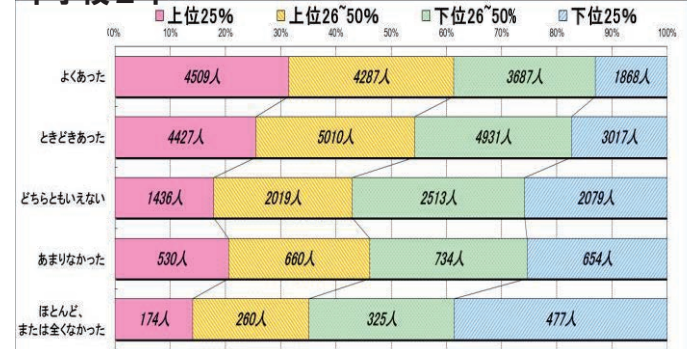


横軸カテゴリ→ 学力階層 数学
 縦軸カテゴリ→ (中2数学)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと



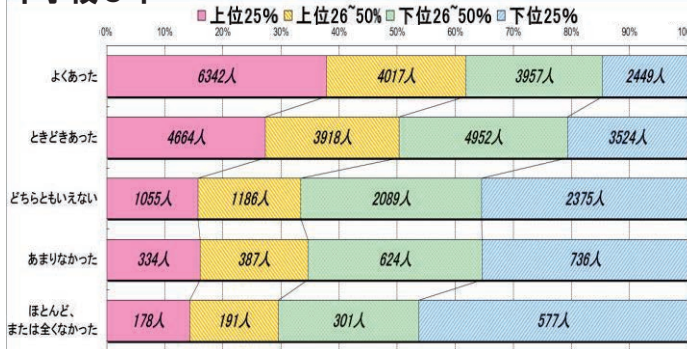
横軸カテゴリ→ 学力階層 英語
 縦軸カテゴリ→ (中1国語)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

中学校2年



横軸カテゴリ→ 学力階層 英語
 縦軸カテゴリ→ (中2数学)授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったこと

中学校3年



5 その他～コロナ禍の学校生活の様子から～

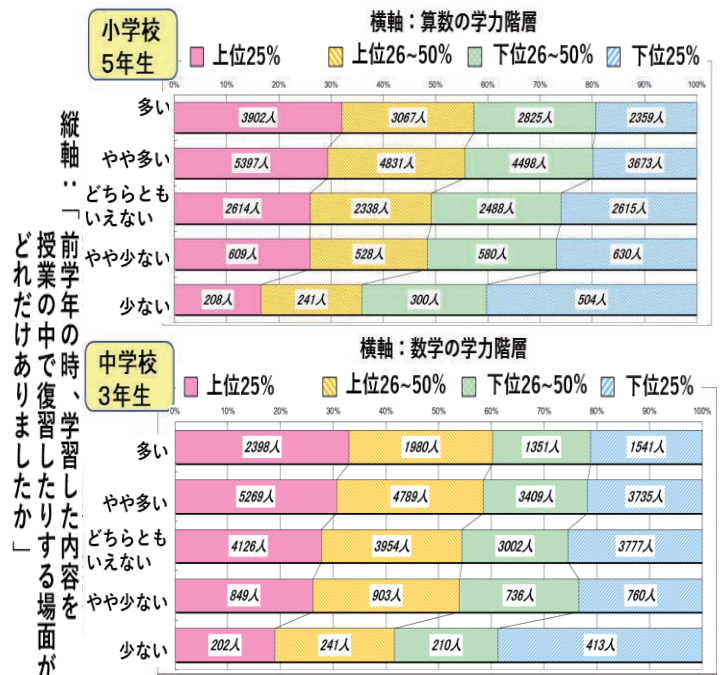
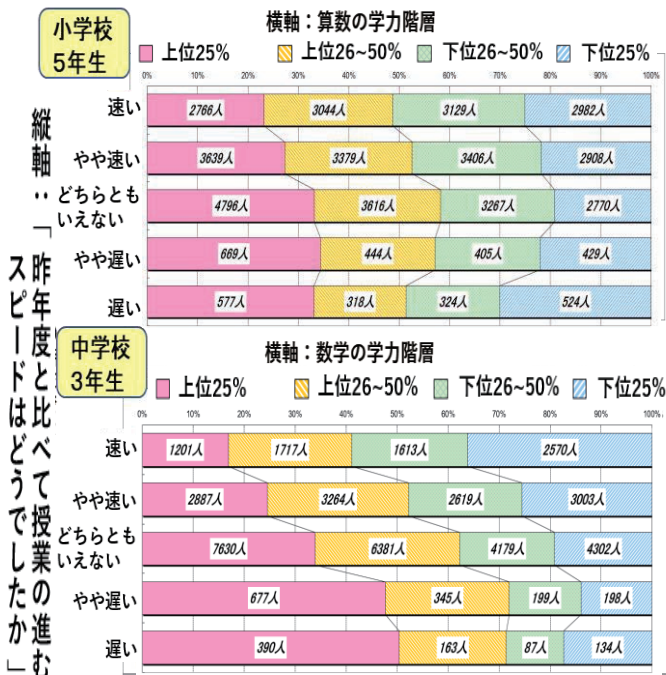
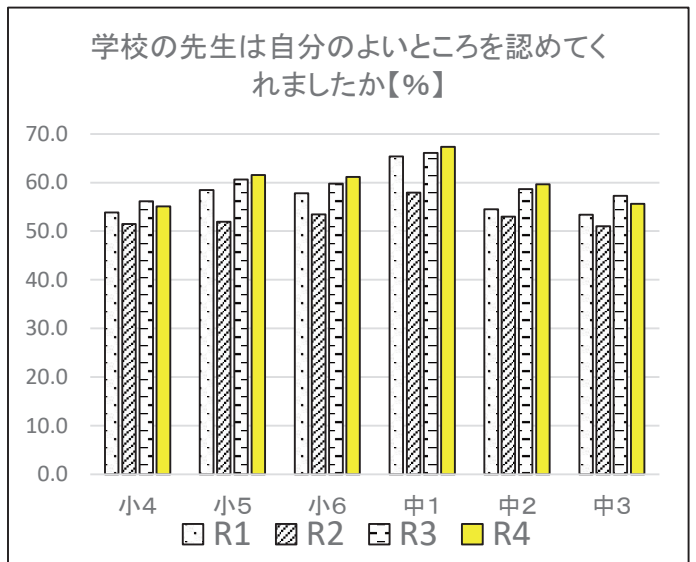
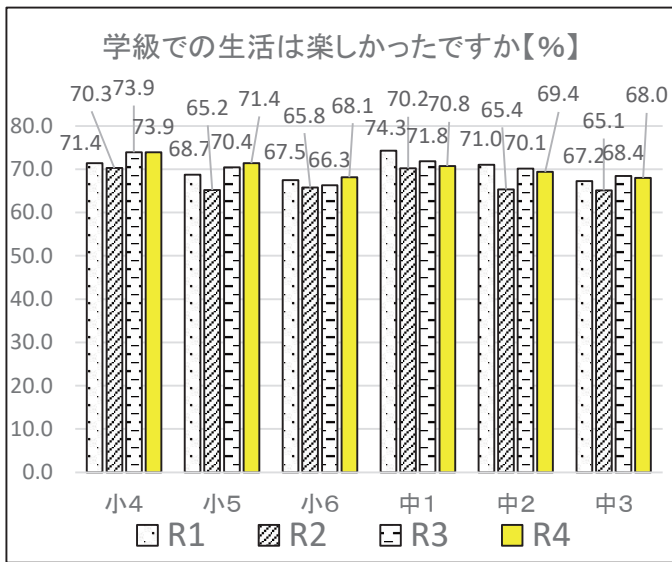
【概要】

「学級での生活は楽しかった」という割合は、令和3年度と同程度で令和2年度より多い傾向が見られた。また、「学校の先生は自分の良いところを認めてくれた」と回答した割合は、過去4年間で増加傾向にある。

学力階層が下位の児童生徒は、授業進度が速かったと感じていたり、確かめたり復習したりする場面が少なかったと感じていたりしていた。

【先生方へのメッセージ】

- 先生方が感染対策を行いながらの授業計画の立案や授業改善をしながらの指導の工夫等をきめ細かく丁寧に行っていたいただいた成果と捉えています。
- 学力階層の下位の児童生徒も含めて、全ての児童生徒に対して、引き続き、県学力・学習状況調査を活用して、一人一人の実態を把握し、きめ細かな支援をお願いします。



※ここでは、小学校5年生、中学校3年生のみのデータを提示していますが、他学年も同様の傾向が見られました。

第7章 今後の埼玉県学力・学習状況調査

令和6年度に1人1台端末を使用した県学力・学習状況調査を県内全域で実施することを目指しています。

この方法で調査を行うことにより、児童生徒の学びの状況を従来以上に詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童・生徒一人一人の学力向上につなげたいと考えています。



○ 今後の埼玉県学力・学習状況調査

児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の更なる学力向上につなげていくことを目的として、本調査のCBT（※）化を進めていきます。 ※CBT…Computer Based Testingの略で、コンピューターを使用して実施する調査

（１） CBT化の主なメリット

- 正誤の状況に加えて解答時間も分析することで児童生徒のつまづきを把握し、より細かな指導が可能
- CBTの特性を生かした問題として、映像を活用して、より実際の学習場面に即した出題が可能

（分析例）

- ・正誤の状況と回答に時間をかけた問題の分野から、つまづいている分野を明確化



個別指導が可能になり、学習支援が必要な児童生徒を早期に発見することにつながる



（２） CBT化に向けた令和4年度の主な取組

① 実施目的と調査対象

ア CBT予備調査

目的：本調査の特長である「学力の伸び」をCBT化後も継続して測定する仕組みの構築

調査対象：4市町（朝霞市・川越市・上里町・杉戸町の小・中学校各1校ずつ計8校）

イ 接続確認調査

目的：令和6年度の本調査のCBT化に向けて、通信環境を確認

調査対象：県内全市町村（さいたま市除く）・全小・中学校等（約1000校）

ウ CBTプレ調査

目的：令和5年度のCBT実施に向けて、市町村単位で検証

調査対象：1市全校（蕨市、小学校7校・中学校3校計10校）



② 主な取組の成果と課題

【成果】

- これまでのCBTの取組結果から、CBTで実施した場合にも、児童生徒の学力の伸びを継続して測ることが可能であると確認ができました。

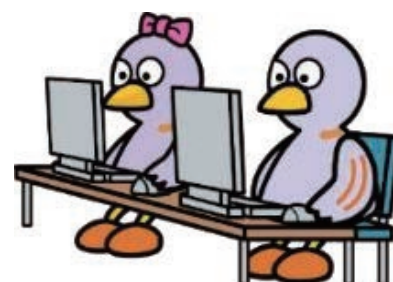
【課題】

- 実施の状況は、市町村や学校の通信環境の影響を受けることが分かりました。今後は、通信環境の負荷を軽減するために、可能な実施方法を提案していきます。

●埼玉県学力・学習状況調査のC B T化へ向けた取組の概要

様々な課題に対応しながら、段階的に埼玉県学力・学習状況調査（県学調）のC B T化に向けた取組を推進

年度	取組概要	
令和3年度	①試行調査	<p>【目的】 3種のOS（Windows・Chrome・iPad）で、直接型・集約型のどちらの接続方法でも調査実施が可能なことの確認、児童生徒のICT活用能力の確認</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）、県立中学校1校</p>
令和4年度	②予備調査	<p>【目的】 「学力の伸び」を、C B T化後も継続して測定する仕組みの構築</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）</p>
	③接続確認調査	<p>【目的】 県立中学校及び県内（さいたま市除く）の全小・中学校を対象とした、学校の通信環境（一斉接続）の確認</p> <p>【対象】 62市町村全校（約1,000校）及び県立中学校（1校）</p>
	④プレ調査	<p>【目的】 全面実施を見据えた実施手法や結果返却方法の実証</p> <p>【対象】 1市全校（小学校7校・中学校3校）</p>
令和5年度	⑤県学調（本調査）	<p>・県内の市町村（さいたま市除く）がC B Tか紙による調査（従来通り）を選択し実施予定</p> <p>※C B T（36市町村及び県立中学校1校）、紙による調査（26市町村）</p>
令和6年度	⑥県学調（本調査）	<p>・県立学校及び県内全ての市町村においてC B Tで実施を目指す</p>



埼玉県学力・学習状況調査キャッチフレーズ

タップで実感 アップでスマイル



埼玉県マスコット「コバトン」

埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>